

Hattori Bot. Lab. 4: 34 (1950).

31. **Weissia controversa** Hedw. var. **tenuiseta** (Besch.) Nog. Basionym: *Weissia viridula* Hedw. ex Brid. var. *tenuiseta* Besch., Ann. Sci. Nat. Bot. ser. 7, 17: 330 (1893).

\* \* \* \*

筆者らは日本産蘚類総目録 (Index Muscorum Japonicarum) を作製する過程で、上記の新組合せが必要なことを知った。一部については高木典雄博士の御教示を得て、これらの処置を提案したい。尚、上記の総目録は近く服部植物研究所報告第37号に印刷される。

○ ***Arachniodes chinensis*** について (芹沢俊介) Shunsuke SERIZAWA: On *Arachniodes chinensis*

*Arachniodes chinensis* は、初め Rosenstock によって、中国貴州産の標本に基き、オオカナワラビの変種として記載された。その後、Ching は中国大陸及びその周辺のカナワラビ類を検討した際に、オオカナワラビよりはむしろホソバカナワラビに近い独立種であると考えた。ところが、このシダの基準標本は、Ching の論文に載せられている写真によれば、オニカナワラビの小さな葉である *A. chinensis* の特徴とされている胞子のう群が辺縁寄りにつく事、最下羽片の下側第1小羽片があまり伸長しない事などは、オニカナワラビに一般的に見られる性質ではないが、日本のオニカナワラビの中にもこのような性質を示すものがある。例えば、1971年秋に長崎県福江島で採集した標本の一つは、この基準標本の写真と大変よく一致する。オニカナワラビは一般にハカタシダの変種として扱われているが、両者の差は頂羽片の著しさや葉質などの点でかなりはっきりしており、少くとも生品での区別は困難ではない。また、差異は混生地でも概して明瞭で、相互の独立性は保たれているものと推定される。両者は近縁ではあるが、別種と考える方がよさそうである。そこで、オニカナワラビの学名は、*Arachniodes chinensis* (Ros.) Ching ということになる。

一方、Ching がこの学名をあてたシダは、記載文や Ching 自身によって *Arachniodes* (又は *Rumohra*) *chinensis* と同定された標本からもわかるように、オニカナワラビとは随分異なった種類である。この種類は、Ching のいう通りホソバカナワラビに近いものであるが、根茎は短く、最下羽片の下側第1小羽片は次の小羽片に比べあまり長くならず、葉の先はホソバカナワラビほど著しく尾状にならない等の特徴で、はっきり区別できる。コバノカナワラビとは、小羽片が小さく、多数つく事、最下羽片の下側第1小羽片があまり伸長しない事などで異なる。Wu, Wong, Pong 共著の

Polypodiaceae Yaoshanensis には、*Polystichum amabile* var. *yaoshanense* Wu として、立派な図が載せられている。この種類には適當な学名がないから、上記の変種小名を種の階級にあげて、新しい学名を作る。九州から記載されたツルダカナワラビ *A. chinensis* var. *japonica* Kurata は、中国大陸のものと格別異なる所はないと思う。イヌツルダカナワラビは本種とホソバカナワラビの中間的な性質を持っており、雑種的なものであろう。

また、東南アジアの *Rumohra holttumii* Tagawa は、Holttum によって *Polystichopsis chinensis* とされたが、オニカナワラビともツルダカナワラビとも異なる種類である。西南日本のハガクレカナワラビはこの種類によく似たもので、葉質がやや薄く、葉縁の鋸歯の先端の芒が長い事などでは一致しているが、小羽片が幅広く、葉柄や中軸には若時鱗片がやや少ないので、一応区別することができる。

**Arachniodes chinensis** (Ros.) Ching in *Acta Bot. Sin* 10: 257 (1962), p. p.—*Polystichum amabile* var. *chinense* Ros. in Fedde, *Repert. Sp. Nov.* 13: 130 (1914).—*Rumohra chinensis* Ching in *Sinensis* 5: 46, pl. 3 (1934), p. p.—*Polystichum simplicius* var. *majus* Tagawa in *Acta Phytotax. Geobot.* 1: 90 (1932).—*Rumohra simplicior* var. *major* H. Ito in *Journ. Jap. Bot.* 11: 579 (1935).—*Polystichopsis simplicior* var. *major* Tagawa in *Journ. Jap. Bot.* 33: 95 (1958).—*Byrsopteris simplicior* var. *major* Kurata in *Nameg. et Kurata, Enum. Jap. Pter.* 339 (1961).—*Arachniodes simplicior* var. *major* Ohwi in *Journ. Jap. Bot.* 37: 76 (1962).—*Arachniodes caudata* Ching in *Acta Phytotax. Sin.* 9: 384 (1964).

Distr. Japan and China.

**Arachniodes yaoshanensis** (Wu) Serizawa, comb. et stat. nov.—*Polystichum amabile* var. *yaoshanense* Wu in *Bull. Dept. Biol. Sun Yatsen Univ.* 3: 78 (1932).—*Polystichum aristatum* var. *yaoshanense* Ching, *ibid.* 6: 22 (1933).—*Arachniodes chinensis* var. *japonica* Kurata in *Journ. Geobot.* 13: 99 (1965).—*Rumohra chinensis* Ching in *Sinensis* 5: 46 (1934), p. p.—*Arachniodes chinensis* Ching in *Acta Bot. Sin.* 10: 257 (1962), p. p.

Distr. Japan (Kyushu) and China.

**Arachniodes holttumii** (Tagawa) Serizawa, comb. nov.—*Rumohra holttumii* Tagawa in *Acta Phytotax. Geobot.* 14: 46 (1950).—*Polystichopsis chinensis* Holtt. in *Fl. Malay.* 2: 486 (1954), excl. basion.

Distr. S. E. Asia (Indo-China, Thailand and Malaya).

(東京教育大学理学部植物学教室)